

クローバー

医療を取り巻く環境の変化に思うこと

事務局長 酒谷 一成

5月5日、WHOは世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言の終了を発表しました。5月8日には、国内でも感染法上の位置づけが5類に変更となりましたが、今後も医療機関にとって院内での感染の発生・拡大を防止することが重要であることに変わりありません。

4月15日、大型クルーズ船の受入れが再開された金沢港で、大浜埠頭に接岸したダイヤモンドプリンセス号を眺めながら、2020年2月横浜港に入港、検疫のため防護服姿の厚生労働省の検疫官が同クルーズ船に入るニュース映像を思い出しました。

当時、新型コロナウイルス感染症がここまで長期的、世界的に拡大すると予測できず、医療業界で働く者として、対応に頭を悩ませていた問題がほかに2つありました。

1つは、「**2025年問題**」、いわゆる「団塊の世代」800万人全員が75歳以上、つまり後期高齢者となり、いよいよ超高齢社会が本格化することで生じるさまざまな影響です。団塊の世代は、第1次ベビーブームの時期に生まれ、広い分野で日本の成長を牽引してきました。この世代が75歳以上を迎えることで、総人口1億2,257万人のうち、後期高齢者の人口が2,180万人に達します。

これにより、医療費や介護費の増大、またそれに伴う現役世代の負担の増大が懸念されています。後期高齢者の一人当たりの年間医療費は、75歳未満のおよそ4倍とも言われ、介護費も後期高齢者は大きく膨れ上がります。これまで社会を支えてきた世代が今度は支えられる側に回るこ

になるのです。この先、日本の医療、介護、年金等社会保障制度はどうなっていくのでしょうか。

もう1つの問題は、2024年4月から適用される「**医師の働き方改革**」です。診療時間外や休日にも業務を行う医師が多い現状を変えるために、また長時間労働に陥りがちな医師の健康の確保や、仕事と家庭の両立を実現するために医師の働き方改革が求められています。時間外労働時間の上限や休日の確保、連続勤務の制限等が設けられ、明確な勤務時間管理と医師自身の意識改革がまず必要となります。医師といえども生身の人間ですが、これまで、医師の激務により地域医療が守られてきたこともまた事実なのです。

現在、日本は少子高齢化を背景に、医師や医療機能の不足、医療従事者1人あたりの作業量の増大、労働人口の減少にともなう国民1人当たりに対する医療費の増加等の課題に直面しつつあり、医療全体の効率化が急務となっています。

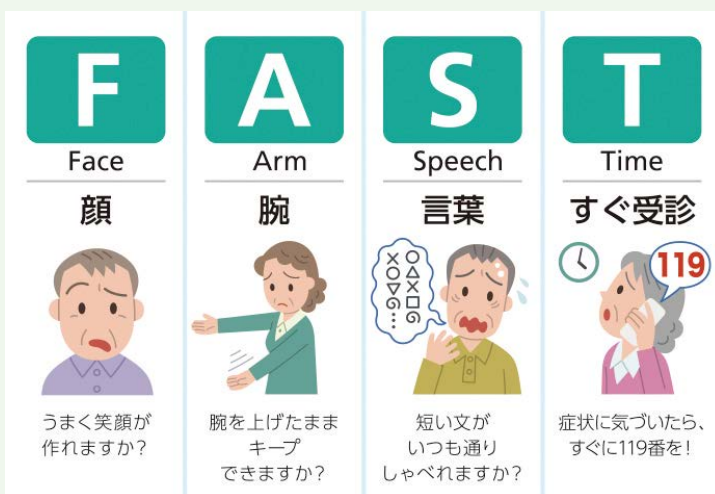
医療の効率化のために医療ICTが推進されるようになり、最近よく医療DXという言葉も聞かれるようになりました。保健・医療・介護の各段階において発生する情報やデータの活用が、医療従事者の負担軽減や、より良質な医療・ケアの提供に生かされるよう医療分野のデジタル化を推進していくことは非常に重要です。

目前に迫った2つの問題の他にも、電気料金や診療材料他仕入価格の値上がり、サイバーセキュリティ対策等、医療を取り巻く環境は変化し続け、その対応を私たちは日々求められています。

脳卒中の初期症状として、

FAST (ファスト)

という言葉覚えてください!



夏は脳出血が少なく、脳梗塞が多いといわれます。特に6-8月は脳外科医にとって農(脳)閑期と言われ、脳出血手術は激減します。しかし、最近では脳梗塞に対して詰まった血管内の血栓(血の塊)を取り除くカテーテル手術が増加し、決して暇ではなくなってきています。

夏は気温の上昇により、たくさん汗をかき脱水となり血液の濃縮(ドロドロ)化が起きやすくなります。特に高齢者では体温調節がうまくゆかず、また何度もトイレに行くのを避けて水分摂取を怠りがちとなります。そのため血管の中で血栓できやすくなります。特に睡眠中は500mL以上の汗をかくのですが、夜中にトイレに行くのが面倒なため、眼前の水(コップ1杯)をとらず、脳梗塞が起きやすいといわれます。運動、入浴による発汗、過度の飲酒(利尿作用あり)、エアコンによる乾燥による脱水も同様です。

血管内の血液濃縮だけでなく、血管が狭くなる動脈硬化も問題です。原因に生活習慣病の高血圧や糖尿病、脂質異常、肥満があります。過度の飲酒を避け、禁煙、適度な運動など生活習慣病対策は脳卒中のリスクを大いに下げます。日々の心掛けがあなたの一生を決めるのです。発症してからではなく未病のうちに早期発見して対応してゆくのが得策です。

しかし、発症してしまったら、時間との勝負です。突然、半身の手足に力がはまらない、しびれが起きる、うまく話せないなどの脳卒中症状が出た時には、そのうちに治るだろうと高をくくっていると、一生の後悔となるかもしれません。しかし紛らわしいのは一時的に起きても数時間以内に治ってしまうこともあります。これを“一過性脳虚血発作(TIA)”といって、脳卒中の前触れで神からの警告発作と言われます。とにかくにも、起きたらすぐに脳神経外科を(できれば救急車で、**電話番号は119番**)受診して下さい。発症から4.5時間以内ならば薬剤(tPA)の静脈注射で血栓を溶かし、たとえ8時間以上経過しても血管内手術で血栓を取り除き詰まった血管を再開通して、後遺症を軽減できる可能性が極めて高くなります。“Time is money(時は金なり)”ならず、“**Time is Brain(脳は時間との勝負)**”です。一刻も争うのです。**症状が現れたら即病院へ**。急いでください。

連携登録医のご紹介

連携登録医とは

地域の医療機関と金沢脳神経外科病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の連携を目指し開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。

今回は、能美市三ツ屋町の「にしかわクリニック」をご紹介します。

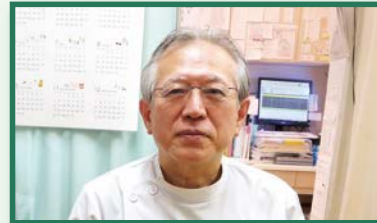
金沢脳神経外科病院様には、地域連携室を通じての緊急対応や午後からの外来開設に感謝申し上げます。

当院は能美市三ツ屋町に開業し21年が経過しました。設立にあたり泌尿器科疾患や腎不全の診断治療をはじめ、健康診断での異常所見に対する二次検診の対応が出来る医院を目指しました。また、介護保険制度の発足に伴い急増する認知症を伴う虚弱な高齢者への健康管理や家族環境への配慮が求められるようになり、自院に居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション、訪問看護を併設した時期もありました。現在はクリニック単体の事業所となりましたが、生活環境を整えるため多種職の連携・協働が大切であると理解し、介護サービス事業所での経験を生かし、患者さん中心にした介護・福祉との密な連携を心がけています。医療面では、泌尿器科の専門性を保ちつつ、在宅治療も行う敷居の低いクリニックを自負しています。一方、困難症例には専門医療機関との連携をたよりに良質の医療を適時に提供できるよう心がけています。



取材スタッフより

何でも相談できそうなユーモアのある明るい先生でした 😊



院長 西川 忠之 先生

【所属学会・認定医・社会活動等】

日本泌尿器科学会専門医／日本透析医学会認定医／日本プライマリーケア連合学会認定医／日本性感感染症学会認定医／日本糖尿病学会会員／日本臨床内科医学会会員／金沢大学学位(医博乙)／能美市医師会理事／能美市介護保険運営委員会兼介護保険事業計画及び福祉計画策定委員兼地域包括支援センター運営協議会兼地域密着型サービス協議会委員／能美市がん精度管理委員会委員／能美市介護認定審査会委員／能美市成年後見制度検討委員会委員／能美市DV対策委員会委員／産業医／能美市立宮竹小学校校医

【略 歴】

昭和61年 富山医科薬科大学卒
昭和61年 金沢大学医学部附属病院泌尿器科研修医
昭和62年 舞鶴共済病院医員
昭和63年 金沢大学医学部附属病院医員
平成1年 福井赤十字病院医員
平成2年 石川県立中央病院医員
平成3年4月 金沢大学医学部附属病院医員
平成3年10月 舞鶴共済病院部長
平成7年4月 芳珠記念病院部長
平成14年5月～現在 医療法人社団泉之杉会にしかわクリニック院長

【診療科】泌尿器科・内科

【住 所】能美市三ツ屋町イ-14-1

【電 話】0761-52-0025

【診療時間】

	月	火	水	木	金	土	日
8:45-12:00	○	○	○	○	○	○	
14:00-17:45	○		○		○		
訪問診療 13:00-14:00	○		○		○		
14:00-17:00		○					

休診日：日曜・祝日



アジア・オーストラリア定位・機能神経外科学会でポスター発表をしました。

2023年4月にアジア・オーストラリア定位・機能神経外科学会に参加し、「姿勢異常を伴うパーキンソン病患者に対するリドカイン筋注療法と理学療法」というテーマでポスター発表をしました。当院ではパーキンソン病の患者さんに対して脳深部刺激療法前後にリハビリテーションを行い、腰曲がり等の姿勢異常を認める場合にはリドカイン筋注療法と姿勢異常に対するリハビリテーションを提供しています。今回、国際学会で最新の知見や世界の動向を学ぶことができました。私自身、国際学会の発表は初めてであり、英語でのポスター作成は苦勞しましたが、先生方の指導によりなんとか完成することができました。今後も積極的に学会に参加し、質の高いリハビリテーションを提供していきたいと思えます。



理学療法士
坂井 登志高

地域健康増進への取り組み「耳寄りな講演会」の開催について

当院では地域の健康増進を目的に、域包括支援センターや公民館などの団体を対象とした「耳寄りな講演会」を行っています。2023年1月～6月までに10件の講演を開催しました。毎回、参加者の皆さんから好評をいただいています。7月以降にも15件の講演を予定しています。

新年度から講演テーマを更新しました。「耳寄りな講演会」の詳細は当院ホームページからもご覧いただけます。

当院ホームページはこちら▶



新型コロナウイルスおよびインフルエンザ等の感染症対策について

当院では、引き続き患者さん・医療従事者等を感染から守るために、院内の感染対策の徹底を強化しています。ご理解・ご協力をお願いします。(病院長)



対応に関しては常時変更となる可能性があります。最新情報は当院のホームページに掲載しています。

病院
理念

私たちは脳神経外科医療の専門家として十分な医療を提供し社会に貢献します。



医療法人社団 浅ノ川
金沢脳神経外科病院

石川県野々市市郷町262-2
TEL:076-246-5600 FAX:076-246-3914
<https://www.nouge.net>

金沢脳神経外科病院 広報誌 第87号 発行:広報委員会
2023年9月1日発行